

1. 橋の歩道を広げる工事をすすめています

【新歌島橋の歩道拡幅工事】

西淀川区役所にほど近い新歌島橋において、平成 25 年度より実施してきた歩道拡幅工事が平成 27 年 3 月に完成しました。

新歌島橋は通学路に指定されているにもかかわらず、工事前には歩道幅員が 2m と狭かったことから、今回の工事により 3.5m に広げ、橋をご利用の方に安全に通行いただけるようになりました。



▲工事着手前



▲工事完成后

【小松橋の歩道拡幅工事】

東淀川区の神崎川に架かる小松橋においても、平成 25 年度より歩道拡幅工事を実施しており、平成 27 年 5 月に完成する予定となっています。

小松橋の歩道は、昭和 46 年に両側歩道が設置されたものの、そのうち東側の歩道幅員は 1.2m と狭いままでしたが、今回の工事が完了すれば幅員が 2.5m となり、より安全に橋をご利用いただけるようになります。

工事に際しては、橋をご利用の方に大変ご不便をおかけしますが、今しばらくお待ちください。



▲工事着手前



▲現在(H27.3.12)の様子

今後も、皆さまが橋を安全にご利用いただけるように努めてまいります。

2.道路構造物設計研修を実施しました

平成 27 年 2 月 9 日、建設局で例年実施している道路構造物設計研修を実施しました。

この研修は、自治体職員の技術力を向上すること、隣接自治体との水平連携を図り技術的知見を共有することを目的として、京都市・神戸市・堺市・大阪府の技術職員の参加を募り実施しているものです。

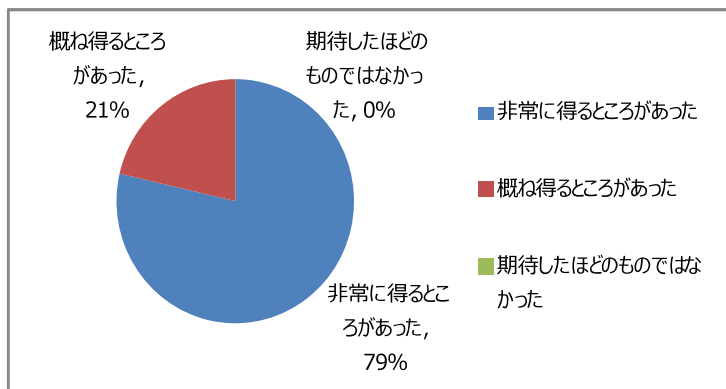
今年度は 20 名の参加があり、橋梁保全工事等に関する研修ののち、実務における課題について各自自治体職員により活発にディスカッションを行いました。

研修後のアンケート結果によると、本研修が参加者にとって有益なものとなっていることがうかがえます。今後も継続的に技術力の向上を目指していきます。



▲研修風景

Q.今回の研修に参加して



主な自由意見

他自治体で抱えている課題や対応方法など、大いに参考にできる部分があり、有意義であった。
各自自治体の課題をうかがえて、とても勉強になった。
他自治体の取り組み状況が分かり、また横のつながりを作ることができて良い。
共通の課題が多く、情報を共有化できてよかった。
非常に有意義な時間でした。
橋梁の担当者が集まるので意見が言いやすい。人数も 20 名程度でちょうど良い。
今後も情報共有を図っていきたい。
水平連携は非常に重要。本研修の継続も重要だと思います。
今後もこのような研修を続けてください。

▲受講者アンケート結果（抜粋）

3.韓国 延世（ヨンセ）大学、ソウル市役所等の視察を受けました

平成 27 年 2 月 13 日、韓国からの橋梁視察をお受けしました。

視察に訪れたのは韓国 延世大学教授の金様、ソウル市役所橋梁維持管理部長の李様をはじめ 9 名の皆さまであり、建設局より管理橋梁の現状や課題、維持管理の方針について説明したのち、橋梁メンテナンスサイクルや維持管理体制などについて活発に意見交換を行いました。

意見交換後には、実際に道頓堀川に架かる橋梁群を現地で視察されました。



▲意見交換の様子



▲現地視察(うしろは太左衛門橋)

◇vol.6 天神橋（てんじんばし）◇

天神橋は中之島公園の先端付近の土佐堀川と堂島川に架かる橋です。最初に架けられたのは文禄 3（1594）年と伝えられていますが、当時は橋名がなく新橋といわれていました。しかし、天満天神社が橋の北側にあったことから、次第に天神橋と呼ばれるようになりました。寛文元（1661）年には幕府が直接管理する「公儀橋」になったといわれています。

天神橋は、明治 18（1885）年の大洪水での流出により、鉄橋化されることになり、ドイツからの輸入品（ボーストリングトラス橋）の橋が架けられました。当時の橋名額は天神橋の北詰に設置されています。現在の橋は、昭和 9（1934）年に完成したもので、昭和 62（1987）年に中之島公園の先端にらせん形のスロープが設けられると同時に美装化を行い、天満宮所蔵の天神祭絵巻を模した絵陶板を飾りました。

橋コラム

▼ライトアップされた天神橋



▼鉄橋のころの橋名額

